

令和4年3月31日

事業完了報告書

- 1 事業の実施期間
令和3年5月11日～ 令和4年3月31日
- 2 事業拠点校名
学校名 奈良県立国際高等学校
学校長名 中尾 雪路
- 3 構想名
最古の国際都市奈良から発信 ～持続可能な社会に向けて～
- 4 構想の概要
拠点校である県立国際高等学校でSDGs等の地球規模の課題解決に向けて探究的な活動を行う先進的なカリキュラムの研究・開発を行う。また、奈良県教育委員会が中心となり、拠点校、県内の国公立高等学校、海外の高等学校や国内外の大学・企業・国際機関等が協働して、奈良の地から東アジア、そして世界へと視野を広げたイノベーティブなグローバル人材を育成するためのAL（アドバンスラーニング）ネットワークを構築する。
様々な事業連携機関や留学生等の多様な背景や考え方、価値観を持つ人々との協働を通して、既存の仕組みを客観的に見つめ直し、最古の国際都市である奈良から持続可能な社会に向けて、新たな価値を提唱していく。
- 5 教育課程の特例の活用の有無
有
- 6 管理機関の取組・支援実績
(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和3年5月11日～ 令和4年3月31日）											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1 WWL AL ネットワーク運営委員会の開催			21日								9日	
2 WWL AL ネットワーク担当者会議開催				5日			11日					
3 WWL AL ネットワーク運営指導委員会の開催											1日	
4 カリキュラムアドバイザーの雇用及び国際高校への派遣			→ 雇用開始	→	→	→	→	→	→	→	→	→ 年間55日勤務

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
5 海外交流アドバイザーの雇用及び国際高校への派遣					→ 雇用開始	→	→	→	→	→	→	→ 年間 57 日勤務
6 外国人講師の雇用及び国際高校への派遣							→ 7人雇用 開始	→	→	→	→	→ 年間 218 時間勤務 (7人)
7 「世界の言語」ネイティブ教員の国際高校への派遣	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→ 年間 296 時間勤務 (5人)
8 カリキュラムアドバイザーによる教員向けセミナー					2日 6日							
9 高校生国際会議開催に向けた高校生実行委員会の開催								13日	18日	6日 23日 (中止)	5日 (中止)	

(2) 実績の説明

【実施体制の整備】

a 拠点校を中心として組織的に研究開発・実践に取り組む体制の整備状況について

カリキュラムアドバイザーを早期に雇用し、事業拠点校において教員及び生徒の指導を担当するとともに、事業連携校へも派遣を促した。同時に、外部講師の謝金及び旅費を確保し、事業連携校からの派遣依頼も呼びかけた。

2月に行われる課題研究発表会においては、「WWL課題研究発表会」と「総合的な探究の時間研究発表会」を共催し、それぞれの成果を発表する機会を設けた。また、「WWL課題研究発表会」と「総合的な学習の時間研究発表会」を共催することで、WWL事業の取組成果を拠点校及び連携校だけでなく、県内の高等学校からの参加生徒や教員に共有した。

b 関係機関の間で十分な情報共有体制を整備した状況について

ALネットワーク運営委員会は、事業拠点校、事業連携校及び事業協働機関の代表者によって構成されているが、より円滑に事業を運営するために、事業拠点校及び事業連携校からALネットワーク担当者を選出していただき、ALネットワーク担当者会議を開催した。実際に生徒を指導する立場にある教員がこの会議に参加することで、拠点校及び他の連携校で行われている取組について情報共有し、それぞれの学校での取組促進につなげた。

c 構想内容の水準を維持するため、管理機関の長、拠点高等学校の校長が果たした役割について

管理機関の長は、ALネットワーク運営委員会を運営し、事業の進捗を管理した。また、事業推進のための人的支援及び財政的支援を確保した。本年度、大阪府立大学との教育連携を進めるに当たり、協定締結を支援した。

拠点校校長は、拠点校教員を指導し、校内体制の整備に努めた。本県における取組の構想水準を維持するために、事業連携校及び事業協働機関と密に連絡を取り、必要な場合には拠点校で打ち合わせする機会を設け、また、事業協働機関を訪問し、進捗状況などを報告するとともに、助言を求めた。さらに、ALネットワーク拡大のため、国内の高等学校・大学を訪問し、新規連携協定の開拓に奔走した。海外の高等学校や教育機関とも積極的に連絡を取り、海外の事業連携校のネットワークも広がりつつある。

d 運営指導委員会の開催実績や検証をするための組織について

運営委員会は6月に開催し、第2回運営委員会は2月に開催した。外部委員から構成する運営指導委員会は、拠点校及び連携校生徒によるWWL課題研究発表会に合わせてリモートにより開催した。生徒による成果発表を視聴し、事業の進捗状況報告の後、運営指導

委員から指導助言をいただいた。

e 拠点校の卒業生の進路と成長の過程を追跡する仕組みの構築について

拠点校である国際高等学校は、開校2年目の学校であり、次年度3学年がそろふことになる。入学当初から海外への留学及び進学希望をもつ生徒や探究活動に高い興味関心を示す生徒が多いことから、今後、奈良県教育委員会としても、国際高等学校の卒業生の進路を追跡調査し、その動向やそれぞれの活躍について、学校と連携を図りながら、調査していきたい。

f アジア架け橋プロジェクトの留学生の支援体制について

本年度、奈良県にはアジア高校生架け橋プロジェクトを利用して、4名の留学生が来日している。管理機関においては、受け入れ校と連絡を取り、留学生の状況を把握している。それぞれの受け入れ校では、留学生担当の教員を配置し、県教育委員会及びAFS関係者と連絡を取り合いながら、留学生の日本での生活をサポートしている。

【財政的支援】

a 管理機関が自己負担額として計上した経費について

拠点校の国際高等学校における中心的な授業として、学校設定科目「グローバル探究」と「世界の言語」の授業が行われている。「世界の言語」では、第二外国語として第1学年より中国語・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語の5つの言語を学んでいる。これらの授業においては、従来の授業のように担当教員がそれぞれの言語を教授するだけでなく、ネイティブ教員が授業をサポートしているが、それらの人件費及び通勤に係る旅費を県費で負担している。令和4年度は、拠点校に第2学年に加え第3学年も在籍することになり、両学年の「世界の言語」の授業においては、すべての授業にネイティブ教員を配置する予定であるので、予算額はさらに増加する。

また、中国清華大学との交流については、県の知事公室国際課と連携をとりながら、交流の計画を進めている。生徒派遣に係る引率教員の旅費を教育委員会が、帯同職員及び通訳の旅費を国際課が予算計上した。

さらに、国際高等学校には開校当初より、計画的に洋書を購入する予算を確保している。予算は年間60万円であるが、10年間継続し、国際高等学校の充実した洋書設置を支援している。

b 管理機関による人的又は財政的な支援や教職員育成の研修やセミナーについて

学校教育課と連携し、本事業の成果を事業連携校だけでなく、県内の全高等学校の教員に広く周知していく。事業最終年度には、県内教員を対象としたグローバル人材育成ワークショップを開催するため、現在各方面と調整を行っている。

c 国の委託が終了した後に継続的に事業を実施するための計画

上述の「世界の言語」ネイティブ教員の人件費及び旅費は、WWLコンソーシアム構築支援事業終了後も継続して予算化する予定である。また、中国清華大学との交流に係る引率教員等の旅費及び洋書購入費用についても、事業終了後も県費からの支出となる予定である。

【AL ネットワークの形成】

a AL ネットワーク運営組織の実績について

今年度は、事業初年度として、管理機関、事業拠点校、事業連携校及び事業協働機関が同じ方向に向かい事業の目標を達成できるよう、第1回AL ネットワーク運営委員会を6月に開催し、事業運営の方向性について確認した。拠点校及び連携校から学校長が出席し、事業協働機関からは各機関の代表が出席した。連携校学校長からは同事業への全面的な協力を約束し、事業協働機関からは、それぞれが得意とする分野での連携や協力を確認した。

b AL ネットワーク運営組織による新たな共同事業の開発について

第2回AL ネットワーク運営委員会を2月に開催し、本年度の事業内容を振り返り、運営指導委員会からの指導助言も参考にして、事業協働機関から次年度に向けたさらなる連携協力を提案いただき、事業拡張を進めている。

c プログラム修了生の国内外の大学進学や海外留学促進について

事業協働機関である株式会社アイエスエイからは、海外留学に向けた情報提供や希望をもつ生徒のカウンセリングを継続的にしていただいている。また、本年度新たに高等教育機関との教育連携協定を大阪府立大学、奈良県立国際高等学校及び奈良県教育委員会の三者で締結し、WWL事業に関しても、国際高等学校生徒の大阪府立大学での授業への参加や、大阪府立大学教員の国際高等学校への出前授業などが実現した。なお、この教育連携協定は、次年度大阪公立大学へ引き継がれることになっている。県教育委員会としては、この連携を高大連携や単位先取り制度の構築へとつなげていきたい。

d カリキュラムを開発する人材の配置状況について

カリキュラムアドバイザーは、週1日のペースで国際高等学校に勤務していただいた。実際に授業を参観し、国際高等学校教員の「グローバル探究」授業における指導内容や指導方法について助言していただいた。カリキュラムアドバイザーが学校に勤務することで、「グローバル探究」授業担当者（国際高等学校では全教員が担当者である）は、授業について相談しやすい環境にあり、任意の相談を随時受けて、助言をいただいた。

また、拠点校においては「グローバル探究」担当チーフと密に連携をとり、日々の授業を振り返るとともに、連携校を訪問し、連携校においても教員の指導に当たっていただき、授業実践とカリキュラム開発にアドバイスをいただいた。

e 高校生国際会議等の開催準備状況について

高校生国際会議の開催は令和4年7月を予定している。日時及び会場は決定している。国際会議の運営を担う生徒を事業拠点校及び事業連携校から募集し、運営に向けた高校生の実行委員会を開催した。高校生国際会議は大変大きなイベントであると考え、生徒たちの会議運営能力を高めるため、本年度行ったWWLコンソーシアム構築支援事業課題研究発表会を高校生国際会議のプレイベントとし、高校生による運営を計画した。新型コロナウイルス感染症の影響でリモートでの開催となったが、実行委員会の高校生が課題研究会の進行などの役割を果たした。

f 事業成果の社会普及や成果報告会などの実施について

本事業における事業成果は、拠点校のホームページで公開するとともに、県教育委員会のホームページでも紹介する。県内の各広報メディアにも掲載し、各報道機関にも報道資料として提供し広く県民にも周知する予定である。

g ALネットワーク運営組織による情報収集・提供について

ALネットワークの円滑な運営のために、運営指導委員を選定する際、ALネットワーク協働機関から委員候補の情報を収集し、運営指導委員への就任を依頼した。

h 関係機関との協定文書等について

「公立大学法人国際教養大学、奈良県立国際高等学校及び奈良県教育委員会の教育連携に関する協定」

「大阪府立大学、奈良県立国際高等学校及び奈良県教育委員会の教育連携に関する協定」

7 研究開発の実績

(1) 実施日程

業務項目	実施期間（令和3年4月～令和4年3月）												
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
拠点校													
1 WWL推進体制		校内推進委員会設置											
2 「グローバル探究」の開発・実践	職員研修	職員研修			職員研修2回			公開授業					
グローバル探究Ⅰ			ボルネオ島オンライン授業				ゼミ活動開始			ゼミ発表会	学年発表会		
グローバル探究Ⅱ			ゼミ活動開始					中間報告会	課題研究発表会	スタディツアー			
校外発表会参加									高校生フォーラムリサーチフェスタ		WWL連携校課題研究会発表会	探究甲子園(関西学院大学)	

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
3 「世界の言語」の 開発・実践	バナソニック研究 指定			EDILIC 学会発表		JACTFL 論文発表		公開授業				
世界の言語 I	オリエン テーション 言語①	言語① 言語②	言語②			言語③	言語③ 言語④	言語④ 言語⑤	言語⑤ 言語選択 講演会	振り返り 課題研究	手話講座	
世界の言語 II	各言語	各言語	各言語			各言語	各言語	各言語	各言語	振り返り 課題研究	課題研究	
4 課題研究を効果的 に進めるための取 組		研修カリ キュラム マップの 作成		サマーセ ミナーの 実施				プレゼン テーショ ン講義 イングリ ッシュビ レッジ①	イングリ ッシュビ レッジ②	イングリ ッシュビ レッジ③	イングリ ッシュビ レッジ④	
ネットワークの拡 大（国内）								大阪府立 大学との 連携協定 締結 APU 研修実 施	名古屋国 際高校と の連携協 定締結			同志社女 子大学と の連携協 定締結
ネットワークの拡 大（海外）				延世大学 オンライン 交流		コリブリ 参加	延世大学 MOU 締結	中国との オンライン 交流				フラン ス・韓国 とのオン ライン交 流

(2) 実績の説明

a 設定したテーマについて

本事業では、「最古の国際都市奈良から発信～持続可能な社会に向けて～」を大テーマとし、その中に以下の6つのカテゴリーを設定した。拠点校における学校設定科目「グローバル探究」では、学年全体を6つのゼミに分けて探究活動を行っており、来年実施予定の高校生国際会議もこれら6つのテーマについて、国内外の高校生と議論を行う予定となっている。

- 1 みんなでつくる笑顔のコミュニティ（防災、まちづくり、福祉、医療、経済、教育）
- 2 いのちの輝きを未来に伝える（生物多様性、保全、共生、環境問題）
- 3 蒼い地球を未来につなぐ（気候変動、地球温暖化、エネルギー）
- 4 先人の知恵を未来へ届ける（伝統文化継承、世界遺産、地域遺産）
- 5 グローバルが生み出す力（国際理解、国際協力、多文化共生）
- 6 みんなちがうからみんなで支え合う（平和、人権、インクルーシブ、多様性）

b イノベーティブなグローバル人材育成に資する体系的かつ先進的なカリキュラム研究開発を、国内外の大学、企業、国際機関等との協働により行ったことについて

本事業では、イノベーティブなグローバル人材に必要な資質能力を「探究力」「創造力」「協働力」「寛容さ」「行動力」「キャリアデザイン力」という6つの力に定めている。拠点校では、これらの力を育成するため、「グローバル探究」を中心においたカリキュラムマップを作成し、教科横断的な取組を進めている。カリキュラムマップの作成においては、カリキュラムアドバイザーである阪南大学祐岡教授の研修を受けた。

6つの力の検証は、学校法人河合塾と連携して作業を進めてきた。本年8月には、6つの力を基盤とした「グローバル探究」におけるループリックを、河合塾山口氏の御指導・御支援を受けながら作成した。また、「キャリアデザイン力」を高めるため、大阪府立大学吉田教授を講師に招き、講演会を実施した。大阪府立大学とは11月に連携協定を締結した。締結後は、大学のゼミに国際高校の生徒が訪問したり、次年度のカリキュラム作成についてオンラインで菅野教授の指導助言をいただくなど、多方面で協力をいただいている。「世界の言語」のカリキュラム開発には、奈良教育大学吉村教授の全面的な支援を受けている。立命

館アジア太平洋大学の教員研修に2名が参加し、生徒15名が大学の留学生と異文化理解研修を行った。3月には、同志社女子大学と教育連携協定を締結した。今後、「グローバル探究」の課題研究の支援や出前授業などについて連携を深めていきたい。

- c 設定したテーマと関連し、外国語や文理両方の複数の教科を融合した内容を、外国語を用いながら探究活動を行う「グローバル探究」等の教科・科目を設定した状況。また、その実施にあたって外国人講師等を活用した実績について

拠点校には、学校設定教科「国際教養」を新たに設定した。教科設置の目的は、「異なる言語・文化、世界の歴史や自然科学について幅広く学ぶことで、国際人として必要な教養を身に付けるとともに、様々な探究活動等を通して、強い探究心と主体性をもって、国際社会で新たな価値を創造していく自立した態度を養う。」こととしており、この学校設定教科「国際教養」に複数の教科を融合した内容について英語で探究活動を行う学校設定科目「グローバル探究」や英語以外の外国語やその文化について幅広く学ぶ「世界の言語」を設定し、両科目において、外国人講師を活用している。

ア グローバル探究

- (ア) グローバル探究Ⅰ（1年次3単位）※社会と情報（2単位）を代替

年度前半は、共通テーマを扱い、その問題が日常生活とつながっていることに気づくことで、自分ごととして捉えることができる力を養った。年度後半は、6つのゼミで探究活動を進めている。その過程を通して、探究活動に必要な基本的知識や技能を身に付け、グローバル探究Ⅱへと深めていきたい。

- (イ) グローバル探究Ⅱ（2年次3単位）※異文化理解（2単位）を代替

6つのゼミで探究活動を進めている。10月からは、奈良先端科学技術大学院大学の留学生7名を外国人講師として各ゼミに配置した。留学生は、英語での課題研究の支援を行っている。12月3日には、英語による中間発表会を実施した。また、当初10月に計画していたシンガポールスタディツアーに代わるものとして1月に九州でスタディツアーを実施した。

- (ウ) グローバル探究Ⅲ（3年次3単位）開校2年目であるため、次年度に向け準備中

国内外の高校生と「高校生国際会議」を開催し、研究成果を世界に発信する。また研究成果を和文・英文で論文として発表する予定で準備を進めている。

(参考) グローバル探究Ⅰスケジュール

4月15日	グローバル探究で身に付けたい力、自己紹介（マッピング）
4月19日～ 26日	「30年後の未来」「しあわせとは？」 セヴァン・スズキ、ホセムヒカ大統領（動画視聴）
5月6日	ボルネオ島の熱帯雨林について
5月10日	熱帯雨林と私たちの暮らしのつながりについて
5月13日	地球と生命のつながり オンラインボードゲーム（筑波大学）
5月17日	ボルネオ島の生物多様性について
5月27日	熱帯雨林と私たちの暮らしのつながりについて
6月7日	熱帯雨林分断体験ワークショップ（ファシリテーター2年有志）
6月10日	熱帯雨林とパーム油を取り巻く現状（ロールプレイ）
6月14日	生物多様性保全について
6月17日	ボルネオ島（BCJT）、旭山動物園オンライン授業
6月21日	オンライン授業振り返り
6月24日 ～7月1日	自分たちにできること 「オランウータン宣言」

夏季休業中	「オランウータン宣言」に基づいた活動
9月16日	検索アプリ「ジャパンナレッジの使い方」
9月27日	ゼミ説明、アンケート
10月4日	6つの力 2学期のゴール設定
10月7日 ～11日	発表準備 夏休み実践まとめ、実行可能性の検証、改善・提案
10月14日	発表会「ボルネオ島へ恩返し～私たちにできること」
10月18日	「メモの取り方」阪南大学祐岡教授
10月24日 ～	ゼミ活動スタート 探究テーマ決定 探究計画書作成 ゼミ担当者と面談
12月6日	2年生発表会動画視聴
1月27日	ゼミ発表会→感染拡大のため個人ワークに変更
2月3日	学年発表会 →感染拡大のため、スクールタクトをもちいた共有に変更

(参考) グローバル探究Ⅱスケジュール

4月13日	学問と探究の関わり (学問探究 Book)
4月16日	学問と探究の関わりグループワーク
4月20日 ～27日	新聞でSDGs ～新しいものさしで考える～
4月30日	新聞でSDGs 発表会
5月7日 ～11日	経済・産業・社会の関係について (カードゲーム)
5月14日	ゼミ決定に向けて
6月1日	ゼミ活動スタート
6月4日	旭山動物園オンライン授業
6月8日	ゼミ活動
10月5日	2学期のゴール設定 (セルフチェック)
10月15日	ゼミ内中間発表会
11月1日	ガー・レイノルズ名誉校長講演 (効果的なプレゼンテーション)
11月19日	ゼミ内発表会
12月3日	学年全体発表会
12月7日	2学期の振り返り、3学期のゴール設定 (セルフチェック)
1月11日 ～14日	スタディツアー ゼミごとでフィールドワーク 九州方面
2月	探究共有会

イ 世界の言語

(ア) 世界の言語Ⅰ (1年次2単位 必修)

全員が中国語、韓国語、スペイン語、フランス語、ドイツ語の5言語を8時間ずつ学ぶカリキュラムを全国で初めて開発した。言語そのものの習得だけでなく、異文化、多様性の理解につなげることも大きな目的としている。各言語の最終レッスンでは、各言語のネイティブ教員が授業に入り、身の周りのことを表現するやり取りや異文化理解の講義を実施している。

奈良教育大学教職大学院の吉村教授にプログラムの開始前(4月)と開始後(12月)に講演をいただいた。また、本年度は初の取組として、県内の耳成南小学校6年生に対して、国際高校生が各言語の特徴や文化など多言語を学ぶ楽しさを伝えるオンライ

ン授業を実施した。

(イ) 世界の言語Ⅱ（2年次2単位 必修）

1年で履修した言語の中から1つの言語を選択し、聞く、話す、読む、書くの言語活動を行う。全ての授業で、日本人教員とネイティブ教員のティームティーチングを実施している。学年末には、課題研究として、各言語での学びについて、他言語を学んだ生徒に伝える成果報告会を実施した。

授業の中では、各言語圏の高校生とのオンライン交流を取り入れることを目標としている。11月には、中国語の授業で、重慶市女子職業高校とオンラインにおける異文化交流を実施した。3月にはフランスサンテレーズ高校、韓国K-POP高校との交流を実施した。スペイン語、ドイツ語については、次年度4月に交流を実施する予定で、現在相手校と準備を進めている。

(ウ) 世界の言語Ⅲ（3年次2単位 選択）開校2年目のため、次年度に新規開講

2年で履修した言語について、聞く、話す、読む、書くの言語活動を発展的に行う。全校生徒の約半数が選択する予定となっている。卒業後、大学での学びにつながるよう今後、高大連携を進めていきたい。

(参考)世界の言語Ⅰ年間スケジュール

	1組	2組	3組	4組	5組
4月14日	オリエンテーション（奈良教育大学吉村教授）				
4月21日 ～6月2日	フランス語	ドイツ語	中国語	韓国語	スペイン語
6月9日 ～6月30日	韓国語	スペイン語	フランス語	ドイツ語	中国語
9月15日 ～10月6日	ドイツ語	中国語	韓国語	スペイン語	フランス語
10月13日 ～11月10日	スペイン語	フランス語	ドイツ語	中国語	韓国語
11月17日 ～12月8日	中国語	韓国語	スペイン語	フランス語	ドイツ語
12月8日	「言語の選択について」（奈良教育大学吉村教授）				
1月12日	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り	振り返り
1月19日 ～1月26日	課題研究	課題研究	課題研究	課題研究	課題研究
2月2日	小学校とのオンライン交流				
2月9日	次年度のオリエンテーション・手話講座				

各言語は8時間（週2時間×4週間）実施。最終日はネイティブ教員とのTT

d 海外の連携校等への短期・長期留学や海外研修を、カリキュラムの中に体系的に位置づけて実施したことについて

学校設定科目「グローバル探究」の一環として、2年生の10月にシンガポールへのスタディツアー（全員参加）を計画していたが、コロナ禍のため、行き先を国内（九州）に変更して1月に実施した。6つのゼミごとにフィールドワークを行い、現地の人とつながるという形で、国内ではあるが、スタディツアーの当初の目的は達成できた。

学校設定科目「世界の言語Ⅱ」では、上述の通り、各言語ごとに、その言語を話す国・地域の高校生と国際交流（オンライン）を行うことができるように、海外交流アドバイ

ガーを中心に調整を進めている。また、今後交換留学が可能になるよう、フランスのコリブりに加盟した。

- e 体系的なカリキュラムの編成にあたって、文系・理系を問わず、各教科をバランスよく学ぶ教育課程の編成をしたことについて

拠点校は、国際科単独設置校であり、1年次から3年次まで、文系・理系のクラスやコース分けのない教育課程を編成している。2年次からは、個々の進路希望等に応じて科目選択するため、卒業までに取得する単位数は、各教科で一律とはならないが、3年間の各教科における単位数は以下の範囲の中で設定している。

教科の例	1年	2年	3年
国語科	4	3～7	5
地歴・公民科	2	4～5	2～9
数学科	5	6～7	2～7
理科	4	2～6	0～6
外国語科	6	5～7	7～11
国際教養 (教科横断)	5	5	3～11

- f 学習活動が、構想目的の達成に資するよう工夫したことについて

拠点校においては、「グローバル探究」を全教科や教科外の教育活動の中心に位置付けながら、以下のような取組を実施している。

ア カリキュラム・マップの作成

「グローバル探究」を教育活動の中心として位置づけたカリキュラムマップを作成し、教科横断的な学びが実現するように工夫をしている。

イ 探究の方法を学ぶ

週3時間、「グローバル探究」でゼミに分かれて探究活動を行う中で、問題解決のプロセスについて学び、情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力、表現力、実行力を身に付けている。

ウ 英語によるプレゼンテーション・ライティング指導

「総合英語」では、ネイティブ教員による単独での授業を実施し、ライティングやプレゼンテーションの指導を行い、生徒の英語によるアウトプットの能力を向上させている。

プレゼンテーションの世界的な第一人者であるガー・レイノルズ教授が、拠点校の名誉校長であるため、希望者向けのサマーセミナー（8月）や2年生対象に英語による効果的なプレゼンテーション方法についての講義（11月）も実施した。

エ 専門教科英語「ディベート・ディスカッション」

地球規模の課題について英語でディベートやディスカッションができる力を付けるため、「ディベート・ディスカッション」を全員必修とし、ネイティブ教員による授業を実施している。（2年次2単位、3年次2単位全員履修）

オ 探究力を測る

1年次、2年次とも4月に、学校法人河合塾のアセスメントテスト「学びみらい PASS」

を実施し、リテラシー・コンピテンシーを客観的に把握することで、研究の成果や課題を確認するとともに、生徒自らが客観的に伸びを認識する機会としている。アセスメントテスト受験後は、河合塾主催で生徒向けの講習会も実施した。

カ 専門教科英語「エッセイ・ライティング」

3年間を通じて「グローバル探究」で行ってきた探究活動の成果を、最終的には日本語と英語両方の論文にまとめるため、3年次には、全員が「エッセイ・ライティング」の授業を履修し、英語での論文作成の力を付ける。次年度の講座開講に向けて、本年度は、教材開発やシラバスの作成を進めている。

g 高大連携による大学教育の先取り履修を可能とする取組を実施（または計画）したことについて

7月から12月の期間に、近畿圏の大学（10校）を訪問し、拠点校の教育活動について説明を行った上で、高大連携の協力を依頼した。

11月22日に「大阪府立大学、奈良県立国際高校及び奈良県教育委員会の教育連携に関する協定」を締結した。今後の連携の方向性を探るため、11月24日には試験的に、国際高校の生徒8名が大学の授業に参加し、大学生とディスカッションを行った。次年度には、情報の分野でより高度な学びを保証する環境を整えるため、2月と3月にオンラインで打ち合わせを実施した。

また、3月23日には、同志社女子大学と教育連携協定を締結した。

h より高度な内容を学びたい高校生が学習できる環境整備について

ア 国際教養大学によるイングリッシュビレッジ

イングリッシュビレッジとは、2泊3日の英語だけで行われるプログラムで、1グループ5名に、国際教養大学の日本人学生2名、留学生1名が指導を行う。このことについては、すでに令和元年11月15日に締結した「公立大学法人国際教養大学、奈良県立国際高等学校及び奈良県教育委員会の連携協力に関する協定書」の第2条第3項に明記している。令和3年度は、令和2年度に引き続き、オンライン全4日間のプログラムを実施をした。

イ 国際教養大学による出前講座

国際教養大学より講師を派遣し、高校生向けの出前講座を開催する予定であったが、コロナ禍のため実現できていない。

ウ 「生物」のオンライン授業

生物の授業では、各分野の知見をもつ大学教授・研究者に講師を依頼し、オンラインで授業を実施している。本年度は、カリフォルニア、麻布大学、高知大学、植物資源研究センター、奈良先端科学技術大学院大学など各分野の専門家の方に授業を実施していただいた。

i 国が実施するアジア高校生架け橋プロジェクトや海外の連携校等からリーダー、架け橋となる人材を受け入れ、日本人高校生と留学生と一緒に英語等で授業・探究活動を履修するための学校体制整備について

拠点校においては、令和2年度は、アジア架け橋プロジェクトより2名（ラオス、フィリピン）、AFS 交換留学生2名（コスタリカ、エクアドル）を受け入れた。日本国際交流振興会（JFIE）よりも英語圏出身生徒4名（カナダ、オーストラリア、アメリカ）を受け入れる予定であったが、中止となった。

本年度は、アジア架け橋プロジェクトより1名（ラオス）を受け入れている。日本国

際交流振興会（JFIE）より4名（ドイツ、アメリカ）については、本年度も派遣中止となった。

拠点校には国際教育部を置き、受け入れの事務全般にあたるほか、各留学生のメンタル面でのサポート、日本語指導のため、学習指導員を配置している。

j その他特筆すべき点について

「グローバル探究」のゼミ活動の中では、地域の自治会や公民館、地域のボランティアの方々などに様々な協力を得ている。各探究の内容は地球規模の課題ではあるが、課題を自分ごととして捉え、地域の人々とともにアクションを起こしていくことができるようにしていきたい。

8 目標の進捗状況、成果、評価

(1) イノベーティブなグローバル人材の育成状況について

本事業では、イノベーティブなグローバル人材に必要な資質能力を「探究力」「創造力」「協働力」「寛容さ」「行動力」「キャリアデザイン力」という6つの力に定めている。

拠点校では、キャリアパスポートで、6つの力のループリックを示し、生徒が年度・学期の始まりや終わりに目標設定し、自己を振り返る時間を設定している。また、「グローバル探究」の時間には、6つの力をベースとしたチェックシートを作成し、毎時間振り返りに使用している。さらに、客観的な資料として、河合塾の「まなびみらいPASS」を全校生徒に実施している。

次年度4月に第2回目の「まなびみらいPASS」を実施する予定であり、次年度には、これらの素材を検証し、育成状況について検証を進めて参りたい。

(2) ALネットワークの形成について

ALネットワークの形成により、これまで奈良県に存在しなかった、事業拠点校、連携校及び連携関係機関の協力関係が生まれ、新たな学びの創造へとつながりができた。

また、国際高等学校がこれまで取り組んできた、「グローバル探究」授業の取組やカリキュラム開発を連携校と共有し、「探究」の学びが拠点校及び連携校間で、さらに深い学びへと進化していったことは、ALネットワークが果たした役割の一つとすることができる。それらの成果を、「総合的な探究の時間」部会との連携により、奈良県内のすべての高等学校と共有できることも成果の一つととらえたい。

(3) 短期的、中期的及び長期的に設定した目標の進捗状況について

ア 短期的目標（1～3年）

(ア) カリキュラムの開発

現在開校2年目であり、「グローバル探究Ⅰ・Ⅱ」「世界の言語Ⅰ・Ⅱ」の開発を進めている。次年度には、「グローバル探究Ⅲ」及び「世界の言語Ⅲ」が開講され、全ての科目が開講されることになる。

(イ) ALネットワークにおけるステークホルダーの拡大

国内では、本年度新たに1高校、2大学と協定を締結することができた。海外のネットワークについても、海外交流アドバイザーを中心に、連携先を開拓し、本年度7つの教育機関とつながることができた。3年間で、国内外7大学、海外連携校10校を目標とし、今後も取り組みを継続する。

(ウ) AP（アドバンス・プレイスメント）システムの検討

システム的前提となる高大連携を現在構築しているところである。

(エ) 高校生国際会議の開催

会場の確保や高校生実行委員会等運営組織の構築など、令和4年7月末の実施に向けた準備を進めている。

イ 中期的目標（3～5年）

(ア) ALネットワークの本格稼働

事業実施3年間で拡大した各ネットワークステークホルダーとの協働が事業実施後も持続可能なものとなるよう、県教育委員会を中心に計画を進めていく。

(イ) APシステムの構築

システム的前提となる高大連携を現在構築しているところである。

(ウ) 拠点校、連携校における国内外トップ大学進学や海外留学の促進

拠点校では、現在最高学年である2年生の進学に向けた準備を進めている。

ウ 長期的目標（10年）

(7) 近府県のALネットワークとの連携

今後、他府県のWWL成果発表会などに積極的に参加し、連携を深めていきたい。

9 次年度以降の課題及び改善点

(1) 管理機関の課題及び改善点

管理機関として財政等支援だけでなく、事業の進行管理や事業推進に積極的にかかわることができるよう、他の管理機関からも情報を収集し、本県の事業推進に努めてまいりたい。また、事業契約期間が終了した管理機関からも情報を収集し、本事業が国の支援がなしでも自走できるよう準備・計画を進めて参りたい。

国の別事業を実施している連携校においては、十分に本事業に参加できていない現状がある。連携校へは本事業へのより積極的な協力を依頼するとともに、それを実現できるような校内組織の整備も依頼したい。また、本事業に係る活動及び取組の充実のために、管理機関による支援が必要な連携校があると感じられる。それらの連携校には、どのような支援が有効か検討し、必要に応じた支援を実施して参りたい。

(2) 研究開発にかかる課題や改善点

事業実施1年目であり、事業内容について、教員間の情報共有や役割分担が定められないまま進行した。次年度は、校務分掌を見直し、新たに研究開発部を置くことにした。校内推進体制を組織的に構築し、研究開発を充実したものにしていきたい。

開発を進めている「グローバル探究」は、学校全体で取り組んでいるため、情報共有、方向性の共有が不可欠である。次年度は、確実に打ち合わせの時間が十分取れるよう、1週間の時間割に組み込むなどの方策をとっていきたくと考えている。

また、次年度より新学習指導要領が実施される。「グローバル探究」で代替する予定となっている「情報Ⅰ」の学習内容をどのように関連付けていくか、シラバスの調整・検討を現在、大阪府立大学の支援を受けながら行っている。

さらに、次年度は、高校生国際会議の開催や高大連携によるアドバンスプレイスメントシステムの構築や海外連携校の拡大について、特に重点的に取組を進めてまいりたい。

【担当者】

担当課	教育政策推進課	TEL	0742-27-9830
氏名	森田純司	FAX	0742-27-2985
職名	主査	E-mail	morita-junji@office.pref.nara.lg.jp